

## Press Release

2008-12-11 No.08-013

### 曙ブレーキ、加速度センサを利用した長周期地震動用「<sup>かんしんき</sup>感震器」を開発・販売

曙ブレーキ工業株式会社（代表取締役社長：信元久隆 本店：東京都中央区 本社：埼玉県羽生市）は、当社の保有するセンサ技術を応用した商品として、周期の長い揺れ（長周期地震動）を検知することができる「<sup>かんしんき</sup>感震器」を開発し、2008年12月中旬より販売致します。

この商品はマイクロマシニング（半導体微細加工）技術による自動車用静電容量型加速度センサを利用し、地盤面の振動を検知するもので、振動検知のしくみは、マイクロマシニングで形成したセンサエレメント（センサの心臓部にあたるシリコン素子）が重力により傾くと、その値を電圧の差として検知する方式であり、この電圧差を傾きの数値として表示するものです。

地震動には短周期の揺れと長周期の揺れがあり、長周期地震動はカタカタ揺れる短周期の揺れとは異なり、数秒から十数秒の周期でゆっくりと揺れます。石油タンクや高層建物等の構造物は大きさによって揺れやすい周期が決まっており、一般的に構造物や建物等が大きいほど周期も長く、長周期地震動に共振し大きく揺れます。これらの揺れは構造物や建物等を破壊し、石油タンク等においては大きな被害を引き起こす恐れがあります。

当社では、かねてから主力製品であるブレーキに加え、自動車分野で培ってきたセンサ技術を自動車以外の分野で商品化をはかってきましたが、長周期地震動を検知することができる「<sup>かんしんき</sup>感震器」によって、石油タンク、高速道路や鉄道の長大橋梁、超高層ビルのエレベーター等の地震被害防止に貢献したいと考えております。